

米国経済・金融概況 (2025年8月)

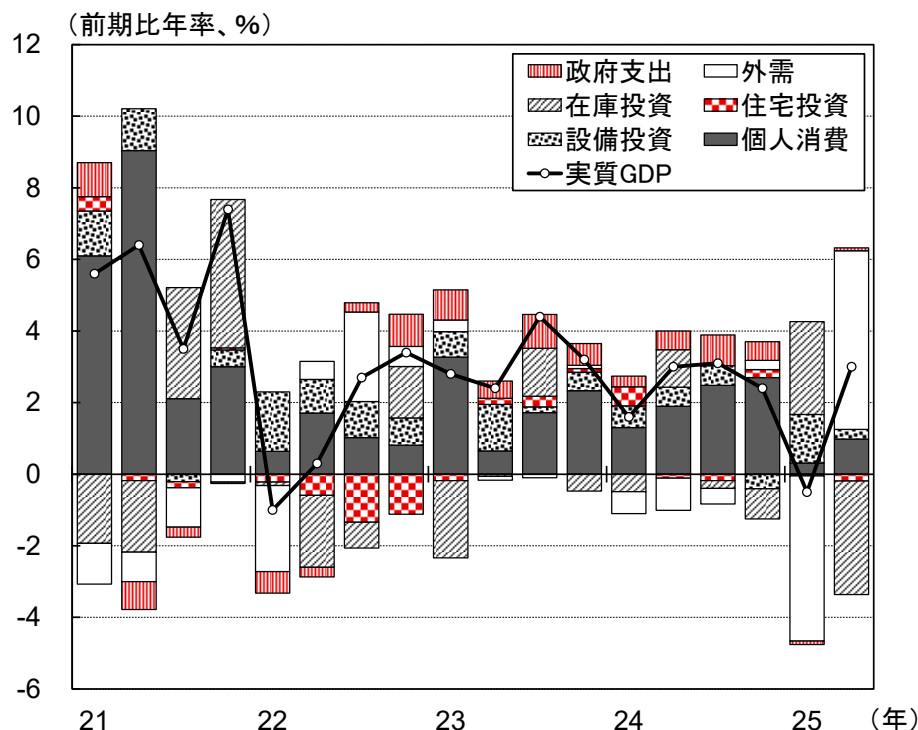
2025年8月26日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

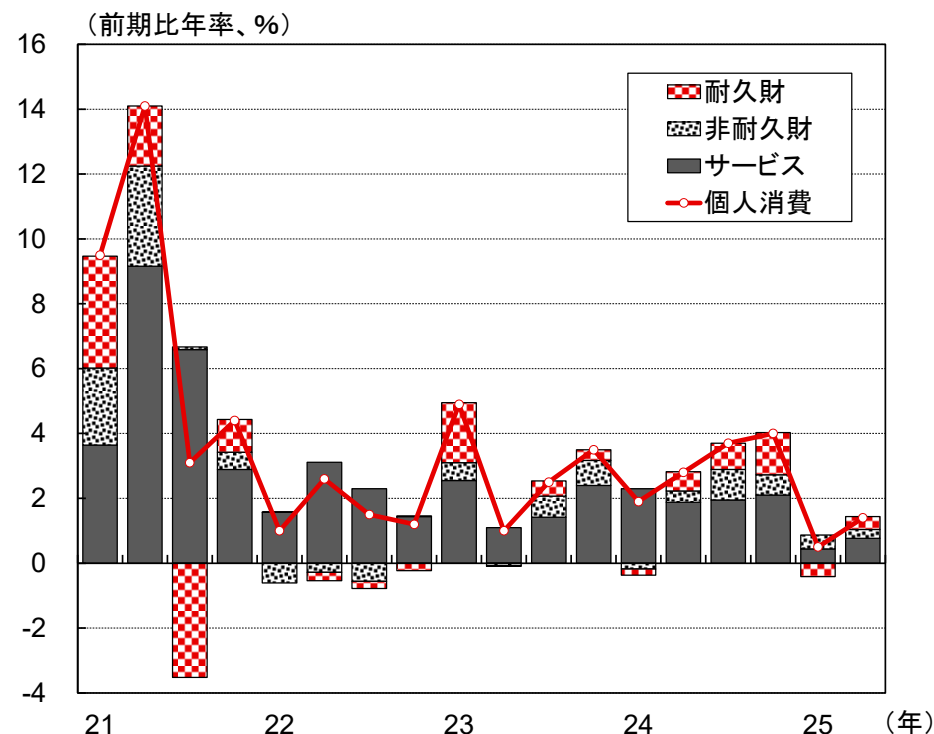
- 4-6月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+3.0%と2四半期ぶりのプラス成長(1-3月期:同▲0.5%)。もっとも、景気の基調を示す国内民間最終需要(個人消費、設備投資、住宅投資の合計)は同+1.2%(前期:同+1.9%)と減速。
- 需要項目別にみると、輸出は同▲1.8%(前期:同+0.4%)、輸入は同▲30.3%(前期:同+37.9%)と、関税引き上げに伴う駆け込みの反動で輸入が大幅に減少し、純輸出(寄与度)は同+5.0%ポイント(前期:同▲4.6%ポイント)と大幅なプラスに寄与。内需は、個人消費が同+1.4%(前期:同+0.5%)と加速した一方、設備投資は同+1.9%(前期:同+10.3%)と減速したほか、住宅投資は同▲4.6%(前期:同▲1.3%)と2四半期連続で減少。
- 個人消費の内訳をみると、非耐久財は同+1.3%(前期:同+2.1%)と減速。耐久財は「自動車・同部品」が2四半期ぶりに増加した一方、「家具・家電・日用品」や「娯楽用品」は減少して同+3.7%(前期:同▲3.7%)と昨年の高い伸びから減速。また、サービスは同+1.1%(前期:同+0.6%)と加速。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

実質個人消費の推移

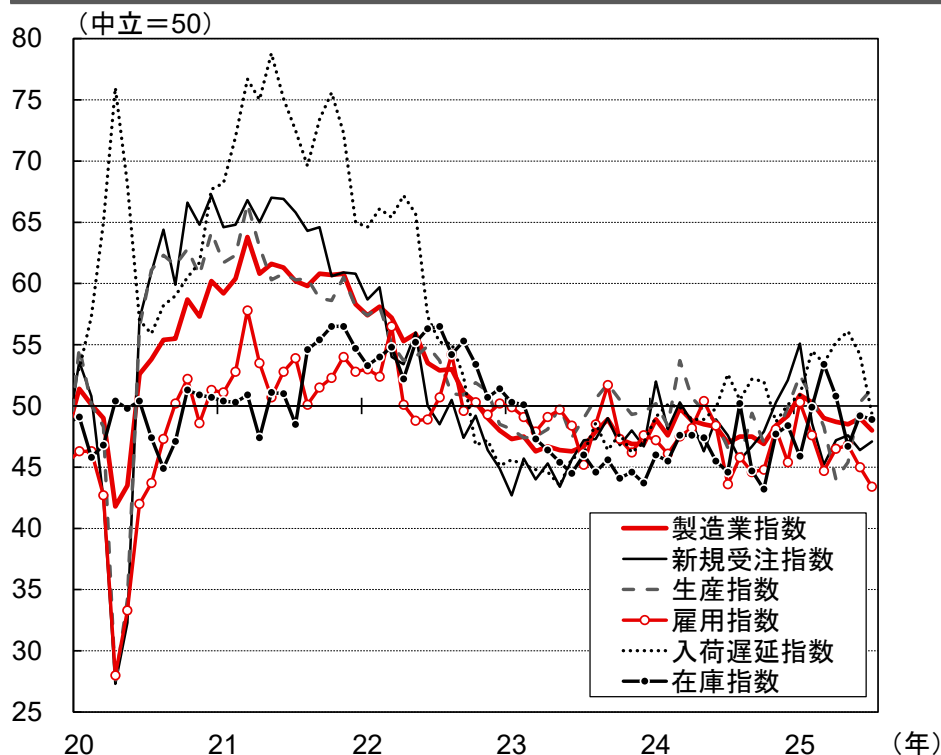


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

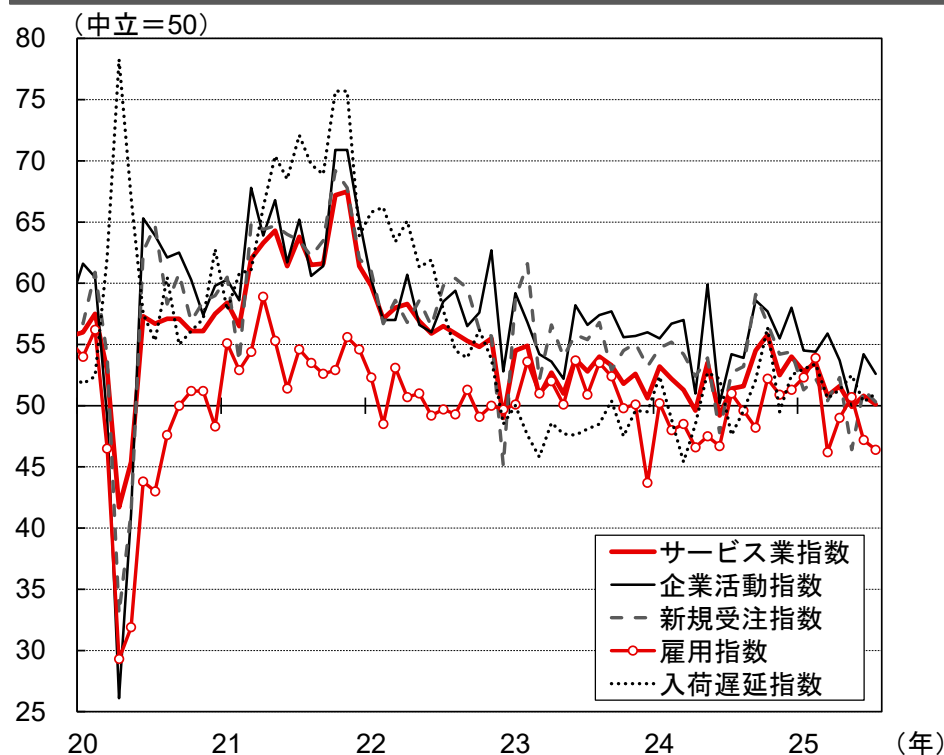
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、7月に48.0(前月比▲1.0ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。指数の構成項目をみると、生産指数(51.4、同+1.1ポイント)、新規受注指数(47.1、同+0.7ポイント)は上昇した一方、入荷遅延指数(49.3、同▲4.9ポイント)、雇用指数(43.4、同▲1.6ポイント)は低下。雇用指数は2020年6月以来の低水準となり、先行きの不透明感を背景に企業は採用を抑制していることを示唆。産業別では全18産業のうち7産業が拡大、10産業が縮小、1産業が横這いを報告(6月は9産業が拡大、6産業が縮小、3産業が横這い)。
- 7月のISMサービス業指数(総合指数)は50.1(前月比▲0.7ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。企業活動指数(52.6、同▲1.6ポイント)、新規受注指数(50.3、同▲1.0ポイント)、雇用指数(46.4、同▲0.8ポイント)が低下。また、価格指数(69.9、同+2.4ポイント)は2022年10月以来の高水準。産業別では11産業が拡大、7産業が縮小を報告(6月は10産業が拡大、6産業が縮小、2産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

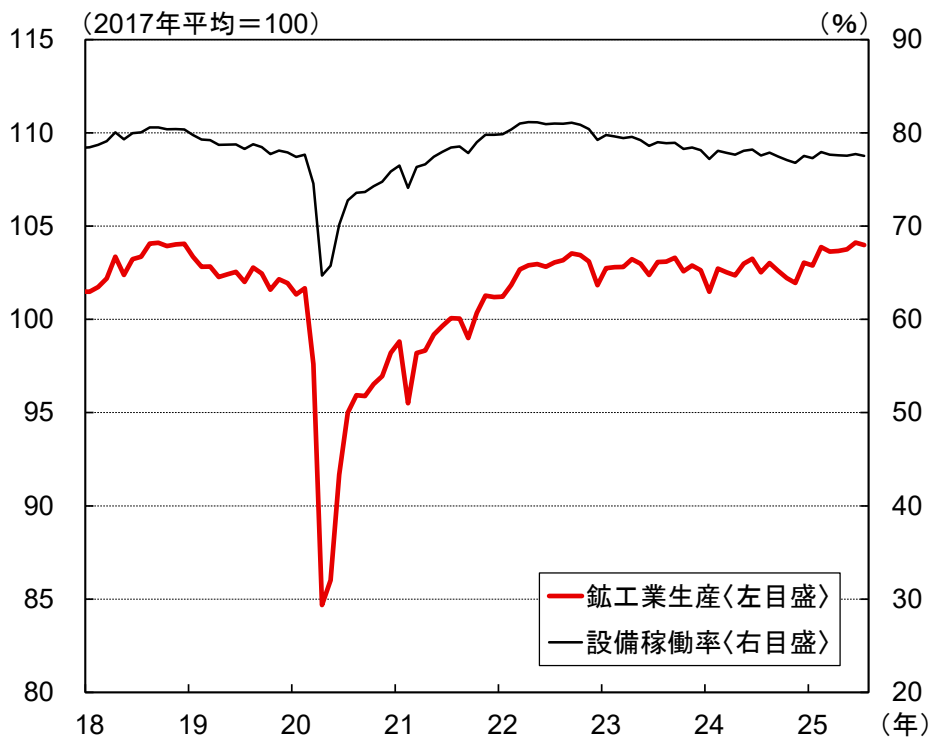


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

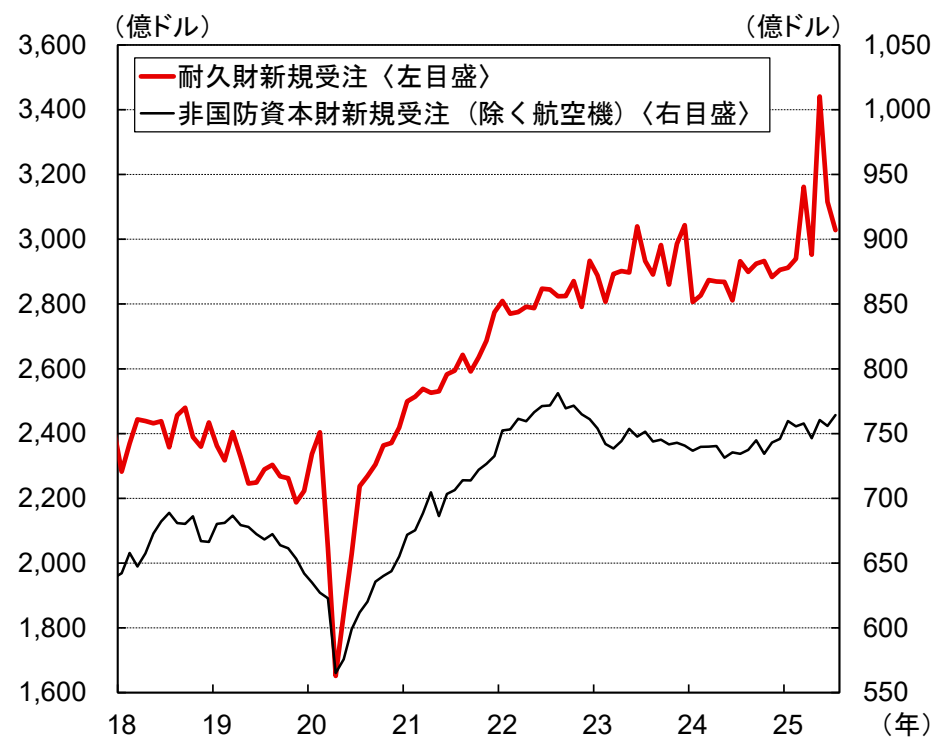
- 7月の鉱工業生産は前月比▲0.1%と4ヵ月ぶりに減少。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.0%と横這い。内訳をみると、「航空宇宙・その他輸送機器」(同+1.7%)、「電気機器・家電」(同+1.0%)が増加した一方、「自動車・同部品」(同▲0.3%)、「機械」(同▲0.3%)が減少。また、「鉱業」は同▲0.4%、「公益事業(電気・ガス)」は同▲0.2%とそれぞれ減少。7月の設備稼働率は77.5%と前月から0.2%ポイント低下。
- 7月の耐久財受注は前月比▲2.8%と減少。内訳をみると、変動の大きい「民間航空機」(同▲32.7%)が大幅に減少して全体を下押し。一方、「電気機器・家電」(同+2.0%)、「機械」(同+1.8%)、「一次金属」(同+1.5%)、「金属製品」(同+0.7%)、「自動車・同部品」(同+0.3%)等の幅広い業種で増加し、設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+1.1%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

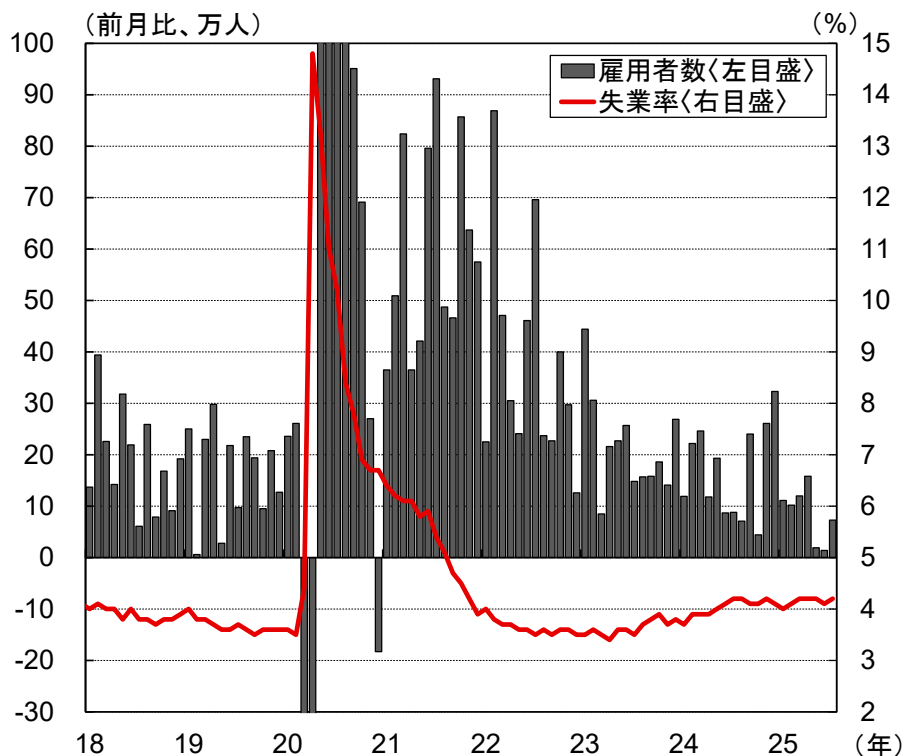


(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

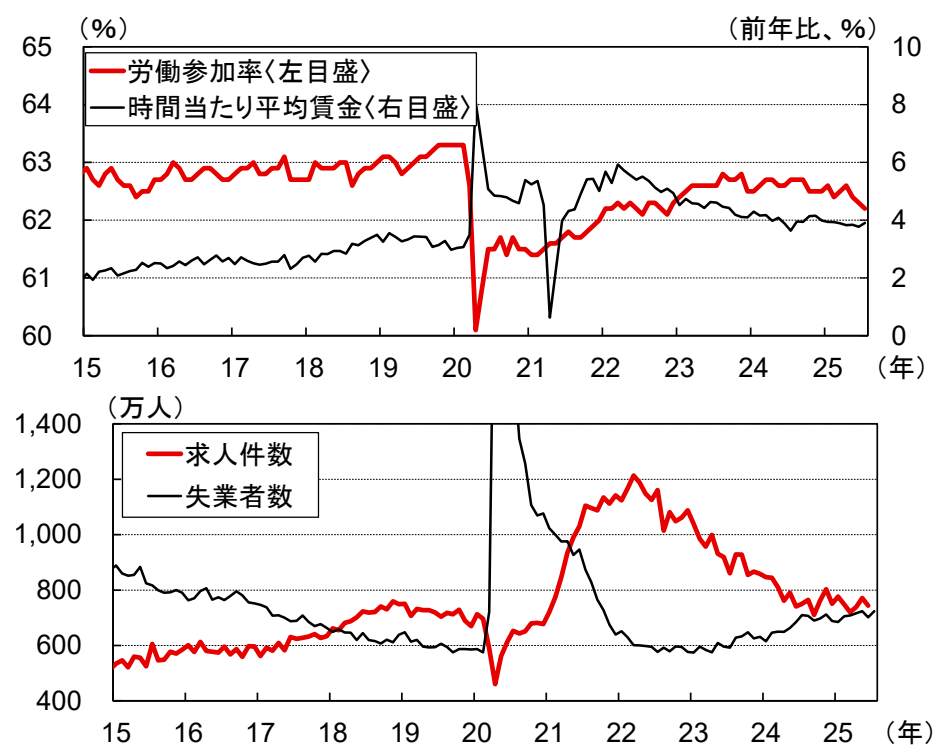
- 7月の非農業部門雇用者数は前月比+7.3万人と市場予想(Bloomberg集計:同+10.4万人)を下回る伸びとなったほか、5月(同+1.9万人)、6月(同+1.4万人)は合わせて計▲25.8人の大幅な下方修正。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+7.3万人)、「小売業」(同+1.6万人)、「金融・不動産」(同+1.5万人)、「レジャー・接客」(同+0.5万人)が増加した一方、「専門・ビジネスサービス」(同▲1.4万人)、「製造業」(同▲1.1万人)、「政府」(同▲1.0万人)は減少。
- 7月の失業率は4.2%(前月差+0.1%ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇し、労働参加率は62.2%(前月差▲0.1%ポイント)と3ヵ月連続で低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.9%と前月(同+3.8%)から加速。
- 6月の求人件数は743.7万件(前月比▲27.5万件)と3ヵ月ぶりに減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.06倍と前月(1.07倍)から小幅低下。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

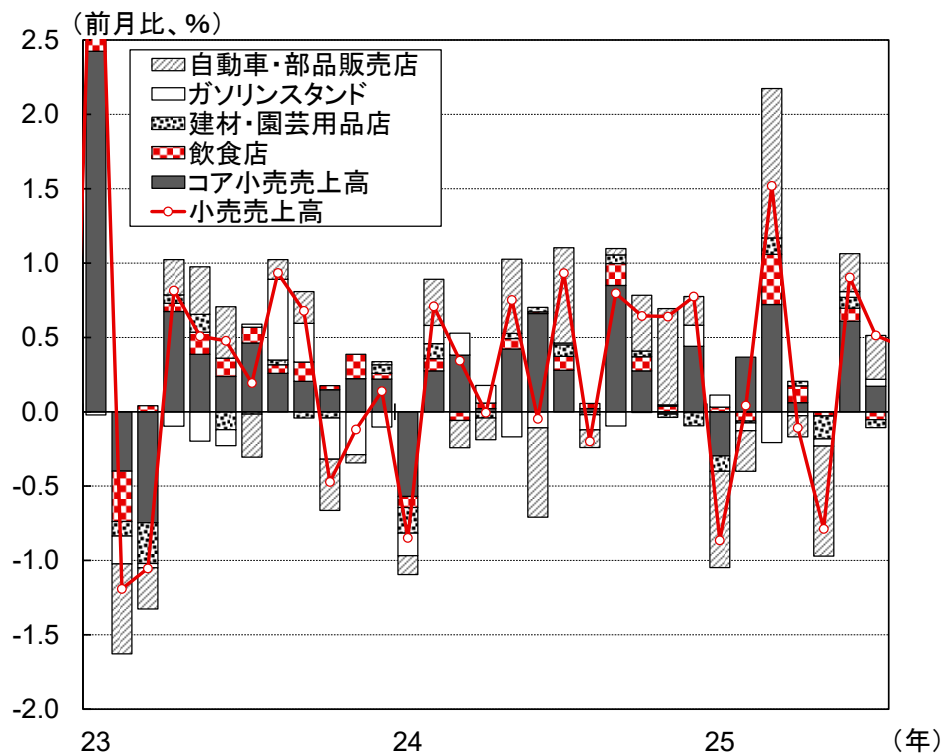


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

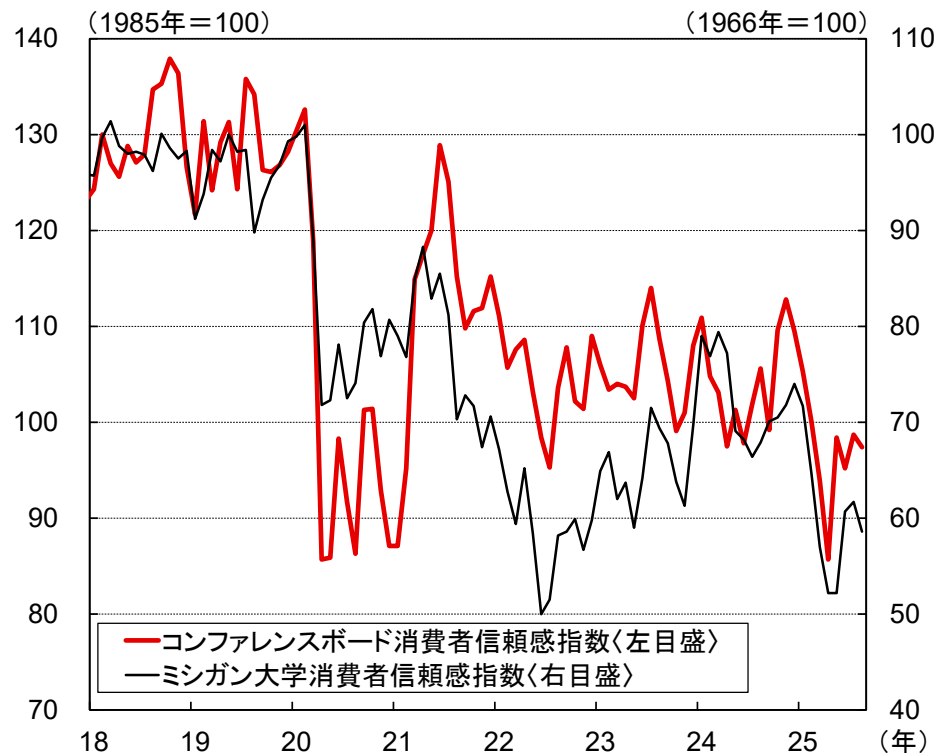
- 7月の小売売上高は前月比+0.5%(6月:同+0.9%、改定値)と2ヵ月連続で増加。また、コア小売売上高(「自動車・部品販売店」、「ガソリンスタンド」、「建材・園芸用品店」、「飲食店」を除く売上高)も同+0.5%(6月:同+0.8%、改定値)と増加し、堅調を維持。業種別にみると、「自動車・部品販売店」(同+1.6%)、「家具販売店」(同+1.4%)、「無店舗小売店」(同+0.8%)、「衣料品販売店」(同+0.7%)等が増加した一方、「建材・園芸用品店」(同▲1.0%)、「飲食店」(同▲0.4%)は減少。
- 8月のミシガン大学消費者信頼感指数は58.6(前月比▲3.1ポイント)と4ヵ月ぶりに低下、コンファレンスボード消費者信頼感指数は97.4(同▲1.3ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。ミシガン大学の期待インフレ率は、1年先が4.9%(前月:4.5%)、5-10年先は3.9%(前月:3.4%)とそれぞれ上昇。

小売売上高の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

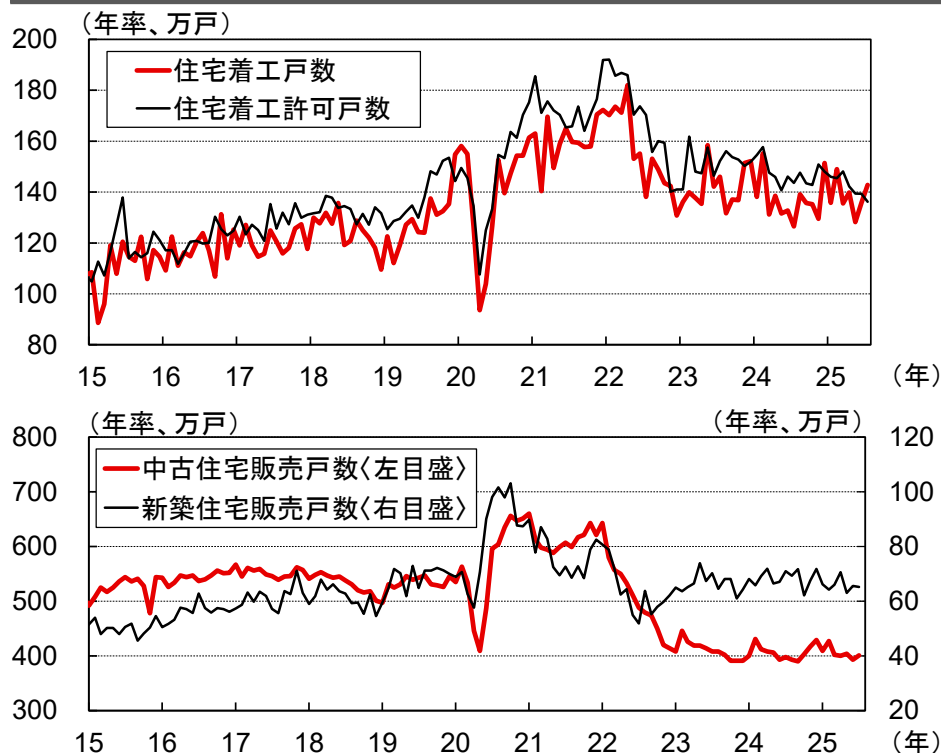


(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

- 7月の住宅着工戸数は前月比+5.2%の年率142.8万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+2.8%の93.9万戸、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+11.6%の47.0万戸とそれぞれ増加。一方、先行指標である住宅着工許可戸数は同▲2.2%の年率136.2万戸(季節調整済)と4ヵ月連続で減少。
- 7月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比+2.0%の年率401万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加した一方、新築住宅は同▲0.6%の年率65.2万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに小幅減少。
- 7月の住宅販売価格は、中古住宅が422,400ドル(中央値)、前年比+0.2%(6月:同+1.4%)と7ヵ月連続で伸びが鈍化。また、新築住宅は403,800ドル(中央値)、同▲5.9%(6月:同+1.6%)と下落幅が拡大。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

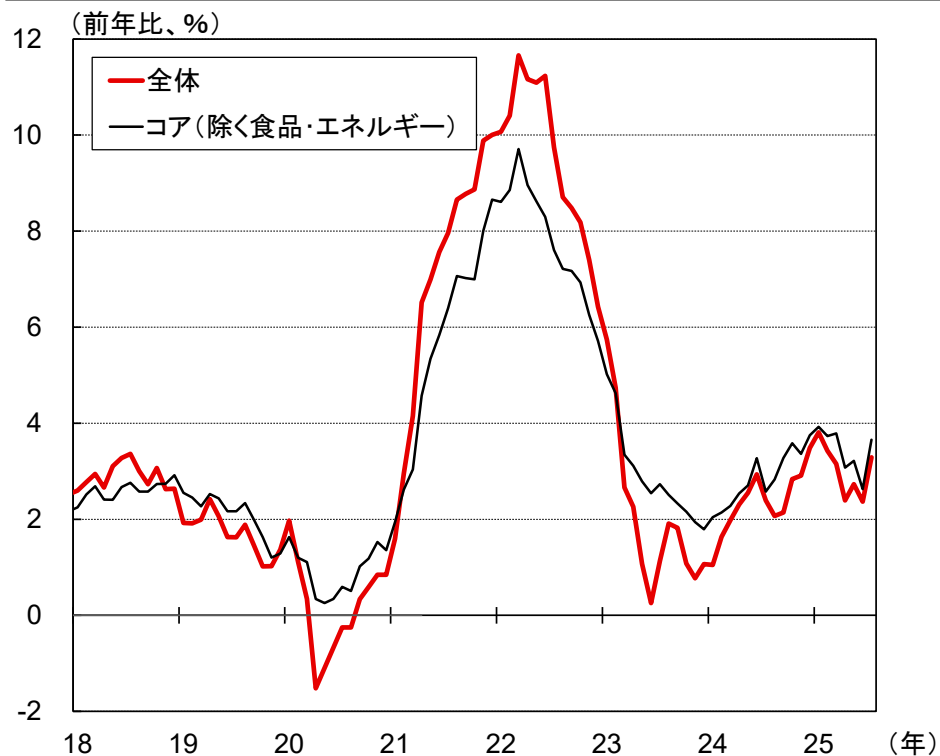
- 7月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.7%と前月から伸びは横這いで推移した一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.1%（6月：同+2.9%）と2ヵ月連続で加速。前月比では、総合指数は+0.2%（6月：+0.3%）と鈍化した一方、コア指数は+0.3%（6月：+0.2%）と加速。もっとも、コア財は前月比+0.2%（6月：同+0.2%）、うち「新車」は同+0.0%（6月：同▲0.3%）、「衣料品」は同+0.1%（6月：同+0.4%）と、関税の影響は引き続き限定的。
- 7月の生産者物価指数は前年比+3.3%（6月：同+2.4%）、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.7%（6月：同+2.6%）とそれぞれ大幅に加速。と大幅に伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+1.9%（6月：同+1.7%）と3ヵ月連続で加速、「サービス」は同+4.0%（6月：同+2.7%）と2ヵ月ぶりに大幅に加速。「サービス」は卸売業や小売業のマージンの上昇を反映。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

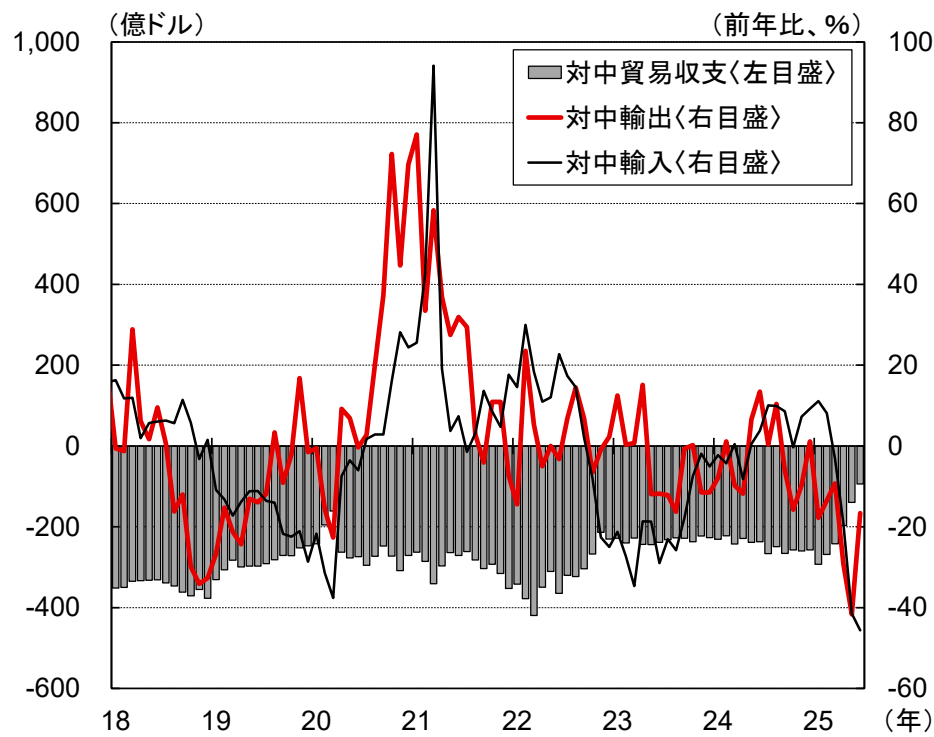
- 6月の貿易収支(財・サービス)は602億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲16.0%(同▲115億ドル)と2ヵ月ぶりに縮小。輸出は同▲0.5%(同▲13億ドル)、輸入は同▲3.7%(同▲128億ドル)とそれぞれ減少。前年比でみると、輸出は+3.3%、輸入は▲1.4%と2023年10月以来のマイナスに転じた。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は6月に94億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲32.8%(同▲46億ドル)と5ヵ月連続で縮小。対中輸出(財)は同+45.4%(同+31億ドル)と4ヵ月ぶりに増加した一方、対中輸入は同▲6.9%(同▲14億ドル)と5ヵ月連続で減少。前年比でみると、対中輸出(財)は▲16.6%、対中輸入は(財)は▲45.6%とほぼ半減。
- 対メキシコの貿易収支の赤字幅は163億ドル(赤字幅は前月比▲4.7%)、対EUは95億ドル(同▲57.8%)、対日本は57億ドル(同▲0.8%)、対カナダは13億ドル(同▲41.1%)と縮小。一方、対台湾の赤字幅は129億ドル(同+12.0%)と拡大。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、7月の雇用統計で5月と6月の雇用の伸びが大幅に下方修正され、次回9月FOMCでの利下げ観測が強まったことから4.2%前後まで低下。その後に公表された7月の物価指標は市場予想を上回ったものの、8月22日にパウエルFRB議長はジャクソンホールでの講演で利下げ検討を示唆。他方、トランプ大統領によるFRBのクック理事解任を巡る問題等、FRBの独立性への懸念も高まっており、長期金利は4.2%前後で推移。
- ダウ平均株価は、8月初旬に雇用悪化への懸念から軟調に推移も、利下げ期待が支えとなり、パウエルFRB議長が8月22日の講演で利下げ検討を示唆した後は最高値を更新。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp